

日英教育研究フォーラム／日英教育学会 研究大会の歩み

結成記念大会 シンポジウム	1992年7月28日 1980年代の教育改革	早稲田大学国際会議場
第2回大会 シンポジウム	1993年7月26日・27日 教育史研究の現在	中央大学駿河台記念館
第3回大会 シンポジウム ゲスト スティーブン・ポール (ロンドン、キングス・カレッジ)	1994年8月27日・28日 教育社会学の現在	国立教育研究所
第4回大会 シンポジウム ゲスト ジョン・ミッチェル (スコットランド視学官)	1995年8月23日・24日 職業資格問題	早稲田大学国際会議場
第5回大会 シンポジウム ゲスト リチャード・オルドリッチ (ロンドン大学大学院教育学研究科)	1996年8月31日・9月1日 教師教育の動向と課題	立命館大学末川記念館
第6回大会 シンポジウム ゲスト ゲリー・マカロック (シェフィールド大学)	1997年8月26日・27日 1980年代教育改革の意義	早稲田大学教育学部
第7回大会 シンポジウム ゲスト ピーター・ギルロイ (シェフィールド大学) / 清水 潔 (文部省高等教育局)	1998年9月17日・18日 教師教育の将来	早稲田大学国際会議場
第8回大会 シンポジウム	1999年9月6日・7日 高等教育改革に関する日英比較	京都大学楽友会館

ゲスト ロナルド・バーネット (ロンドン大学院大学教育学研究科)

第9回大会 2000年9月30日・10月1日 早稲田大学国際会議場

シンポジウム 21世紀の学校教育とカリキュラムの構造

ゲスト マイケル・F・ヤング (ロンドン大学院大学教育学研究科)

第10回大会 2001年9月29日・9月30日 早稲田大学

シンポジウム 教育とセクシュアリティ

ゲスト ダイアン・レナード (ロンドン大学院大学教育学研究科)

マイケル・ライス (ロンドン大学院大学教育学研究科)

第11回大会 2002年9月29日・30日 早稲田大学

シンポジウム イスラームと学校・教育

ゲスト ジェフリー・ウォルフォード (オックスフォード大学グリーンカレッジ)

第12回大会 2003年7月20日・21日 京都女子大学

シンポジウム 英国の教育界における<公私>関係の現状とその示唆するもの

ゲスト ヴィヴィアン・アンソニー (前全国校長会事務局長)

*この年から日英教育学会と改称

第13回大会 2004年7月26日・27日 東京都立大学

シンポジウム 「第三の道」?としてのニュー・レイバーの教育政策

ゲスト シャロン・ゲワーツ (ロンドン大学キングス・カレッジ)

第14回大会 2005年7月23日・24日 佛教大学

シンポジウム 教育におけるキーワードとしてのミドルクラス

ゲスト スティーブン・ボール (ロンドン大学教育学大学院)

日英教育学会スカラシップの歩み

1998年 第一回 British Council=UK-Japan Educational Forum Scholarship

受賞者 松本 純 (明治学院大学院生)

「19世紀末ロンドン商業会議所による実学教育の取り組み」

受賞者 天童睦子 (早稲田大学大学院)

「ジェンダーと教育」

1999年 第二回 British Council=UK-Japan Educational Forum Scholarship

受賞者 小宮明彦 (早稲田大学大学院)

「学校におけるヘテロセクシズムを越えるために」

2000年 第三回 British Council=UK-Japan Educational Forum Scholarship

中止

2001年 第三回 British Council=UK-Japan Educational Forum Scholarship

受賞者 新井英靖 (茨城大学)

「イギリス特別教育史の構想」 (これ以降受賞論文は紀要に掲載される)

2002年 第四回 British Council=UK-Japan Educational Forum Scholarship

受賞者 小松佳代子 (流通経済大学)

「J・ベンサム立法論における統治と教育」

2003年 第五回 日英教育学会スカラシップ (改称)

受賞者 石黒万里子 (早稲田大学大学院)

「ブレア新労働党政権の家族・教育政策」

受賞者 野上祥子 (東京芸術大学大学院)

「イングランドの音楽科教員養成における理論と実践の統合」

2004年 第六回 日英教育学会スカラシップ

受賞者 該当者無し

2005年 第七回 日英教育学会スカラシップ
受賞者 該当者無し

2006年 第八回 日英教育学会スカラシップ
受賞者 該当者無し

第9回日英教育学会スカラシップ応募規定

応募人数 若干名
目的 研究奨励およびイギリスにおける新たなネットワークの開発
スカラシップの内容 1週間の英国旅行費用相当
応募資格 本学会の会員であること
提出物 所定の応募用紙（事務局より配布）および応募論文（イギリス教育研究に関するもの：400字30枚以内、打ち出し原稿2部、MS-DOSテキストファイル添付）
締め切り 2007年5月31日（消印有効）
審査
1）歴代表、事務局長経験者から構成される選考委員会（一次審査）
2）インタビュー（英語：二次審査）
発表 総会

日英教育研究フォーラム投稿規程

- 1) 投稿受付は随時とするが、最終締切は毎年3月31日とする。
- 2) 投稿資格は日英教育学会の会員であること。
- 3) 論文の形式は自由であるが、表紙にタイトルと氏名を明記すること。本文は註を含め、400字詰め原稿用紙50枚以下とする。英文の場合は5000words程度とする。本文のほかに英文要約(500 words以内)を提出すること。なお、打ち出し原稿3部のほか、フロッピー(テキストファイル)またはEメールで提出する。論文は未発表のものに限る(口頭発表はその限りではない)。
- 4) 事務局は投稿論文を受け取り後、すみやかに3名から構成される審査委員会(うち委員長としての運営委員1名以上を含む)を設置し、論文の審査を依頼する。
- 5) 投稿論文は一切返却しない。
- 6) 審査委員会は提出された論文に対して修正を求めることができる。
- 7) 審査委員会の構成および審査過程、審査結果は公表しない。
- 8) 採用論文は日英教育研究フォーラムに掲載される。

論文提出先

〒192-0397 八王子市南大沢1-1 東京都立大学人文学部 大田直子研究室気付
日英教育学会事務局

◇会則◇

1992年7月28日制定・施行
改正1995年8月
改正1996年8月
改正2002年9月
改正2003年7月

第1条（名称）本ネットワークは日英教育学会（The Japan-UK Education Forum）と称する。

第2条（目的）イギリス教育の研究を多角的に発展させ、日本の教育の進展と日英両国の教育研究者の交流および両国の親善に貢献することを目的とする。

第3条（事業）本学会の目的を達成するためにつぎの事業を行なう。

- (1) イギリスの教育に関する情報の交換
- (2) イギリス教育に関する研究機会の提供
- (3) 「ニュースレター」の発行
- (4) その他、目的に合致する諸活動

第4条（会員）イギリス教育の研究に携わる者および関心を持つ者で、本学会の目的に賛同する者をもって会員とする。

第5条（役員）本学会につぎの役員を置く。

- (1) 代表1名。代表は本学会を代表する。
 - (2) 運営委員若干名。運営委員は代表を補佐し学会に運営に当たる。
 - (3) 監査2名。監査は本学会の会計を監査する。
- 役員の任期は2年とする。再任を妨げない。

第6条（組織）本学会に次の組織を設ける。

- (1) 総会。総会は本学会の最高議決機関である。年1回開催する。
- (2) 分会。分会は研究機関・地域等を単位とする会員の組織である。
- (3) 運営委員会。運営委員会はネットワークの調整その他本学会の運営に当たる。運営委員会には運営委員長を置く。

第7条（会費）会費は年額5,000円とする。なお、分会費は分会が別途定める。

第8条（会計年度）会計年度は4月1日から3月31日とする。

第9条（会則変更）会則変更は総会出席者（委任状を含む）の3分の2以上の賛成を要する。

附則 本会則は1992年7月28日から施行する。
附則 本会則は1996年4月1日に遡って施行する。
附則 本会則は2002年4月1日に遡って施行する。
附則 本会則は2003年8月1日から施行する。